## （３）養　豚

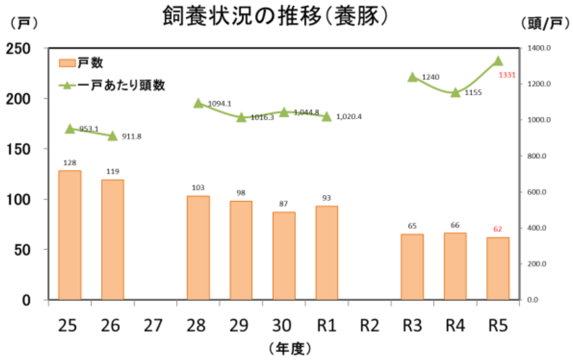
○　飼養戸数、飼養頭数ともに減少傾向であるが、１戸あたりの飼養頭数は変動があるものの、増加傾向で推移している。飼養規模の拡大や専業化の進展により経営の合理化・高度化とともに、後継者の経営参加が進んでいる。

○　令和４年度の県内の豚肉生産量は１１，５２５トン（枝肉）（需要量１５５．７千トン）で、自給率は７．４％となっている。

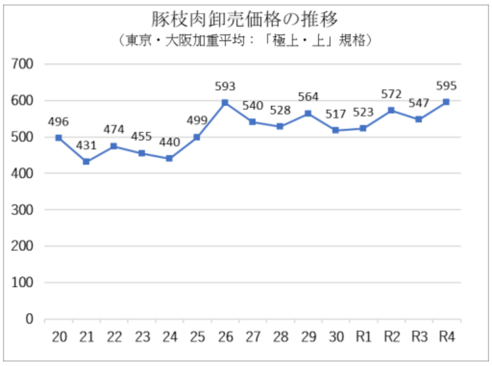
○　豚枝肉卸売価格は、令和３年度に「巣ごもり需要」がやや弱ったことで前年度４．４％低下したが、令和４年度は、高騰する輸入品の代替需要に加え、比較的高価な牛肉からの需要のシフト等を背景に、前年度比８．８％高で５９５円となった。令和５年度（４月～１０月）は、前年同期比５．２％高と昨年に引き続き高値で推移している。

○　「彩の国黒豚」や「古代豚」など品種や飼料にこだわったブランド豚や６次産業化への取り組みが進んでいる。

○　県農業技術研究センターでは、県内農家へ「彩の国黒豚」の提供、受胎率向上のための凍結精液の作成、ＣＳＦ等の家畜伝染病から絶滅を回避するために凍結受精卵の作成を行っている。




※H27, R2 は畜産統計調査の実施なし



【彩の国黒豚】